

# 新型コロナウイルスに対する保護者説明会議事録

主催者：厚生労働省  
藤田医科大学  
愛知県  
岡崎市保健所  
岡崎市教育委員会

日 時：令和2年2月21日（金）19時00分

場 所：岡崎市立岡崎小学校屋内運動場

参加者：290人

(司会)

初めに、今回の受入れの経緯についてご説明をさせていただきます。

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部の池田事務局員の方からご説明をさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

(厚生労働省：池田事務局員)

本日は大変お忙しい中、また非常に短期間のご案内であったのも関わらずお集まりいただきましてありがとうございます。ご紹介にあずかりました厚生労働省の対策本部員の池田でございます。よろしくお願いいたします。

今回の件、16日の日曜日から急激にいろんなことが動き出したということもございまして、一番不安に思っておられるであろう皆様方に対するご説明が今日になってしまったこと、まずもってお詫びをさせていただきたいと思えます。もう少し早くやりたかったのですが、今日になってしまったこと申し訳ございません。

今回、岡崎医療センターに搬送された方々というのは、クルーズ船の中におられてそして症状がないけれども、検査結果が陽性であった方々ということでございます。こういった方々が安心して過ごせてかつ、まず周囲への感染をシャットダウンするということが一番大事なことだと思っておりますし、万が一症状が出た場合には、迅速に医療に繋がられるような場所ということが必要でございました。それにつきまして、岡崎医療センターの方で受入れをしていただき本当に感謝しているところでございます。

だいぶ皆様方、お詳しくなっているのではないかと思います。新型コロナウイルスによる感染は飛沫感染と接触感染でございます。ですから、しっかり管理された中であれば外に出ることはございません。また、結構大事だと思うんですけども、岡崎医療センターにいらした方々というのは、クルーズ船の中で新型コロナウイルスというもののリスクに対して明確に意識をされていて、そして自分たちが陽性であるということ認識されているところでございます。

今いろいろなところで、少し大規模な集まりなどがキャンセルされていたりしておりますけれども、何が怖いかというと自分が感染していると知らない人が来るかもしれない、そうすればそういう人たちが閉鎖された空間の中にいるということは、コントロールができないこととなりますので、いくつかキャンセルされているものがあるということでございます。

ここの岡崎医療センターでは、非常に意識の高い方々が個別の病室の中で過ごすということをお約束をいただいて、かつ医療センターの方々がしっかりと管理していただくということから、外にも出ないしウイルスも出ないというように申し上げて良いと思っております。

いろんな不安をお持ちの方もおられると思えますけれども、今、日本はとても重要な立場にあると思えます。国民の方一人一人に対して、手洗いや咳エチケットな

ど、いろいろなお願いをしております。特に国民の皆様方に理解をしていただいくことが大変必要な時期だと思っております。

岡崎医療センターからこれから詳しい説明があると思えますけれども、しっかり管理されているところだということをしかりとご理解いただきたいと思っております。

私からは以上です。

#### (司会)

続きまして受入れ体制につきまして、藤田医療大学岡崎医療センター守瀬病院長予定者、お願いします。

(藤田医科大学岡崎医療センター：守瀬病院長予定者)

皆様、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。岡崎医療センターの開設準備をしております守瀬と申します。この度は、我々の説明が遅くなり、皆様に大変御心配をおかけしていることを心からお詫び申し上げます。

先ほどもお話がありましたように、私共にお話がまいりましたのは厚生労働省から直接当学園の理事長に2月16日、日曜日にお話をいただきました。コロナウイルスに感染して乗船の方々の行く末が皆さんの心配事になっているというのはそれ以前から皆さんも御存じだったと思えますし、我々も認識していたところでもあります。そこに日曜日に厚生労働省から「ぜひ藤田医科大学の我々の医学知識を持ったスタッフの力を、それから岡崎医療センターの建物を使わせてもらってしっかりした管理をすることでそのようなウイルス陽性の反応が出てらっしゃる方をしっかり管理して観察して外にウイルスを拡げないような施策を取るためにぜひ協力をしてほしい。」という強い要請を受けまして、まず我々の理事長に日曜日に話が来たのですが、それからまずは主だったところに話を回して2月17日、月曜日の早朝に緊急会議を開きました。もちろんいろいろな意見が出ましたが、総意としましては、「これは日本全体の危機であり、我々全員の危機であると考え対応すべきではないか。」と。もちろん、皆さん御意見がおありだと思います。我々のなかでも正直いろいろな意見が戦わされたのですが、最終的にはそういう総意に至りました。そうして、我々としては請けざるを得ないだろうと。請けて頑張って、もちろん岡崎の市民の皆さんを含めた日本の皆様にご貢献するべきであろうという最終的な判断のもとにお請けさせていただいたのが月曜日であります。実は、もう本当に時間が迫っていましたので1日も早く引き受けをしてほしいという要望を受け賜っておりましたので、それから月曜日の昼から急いで準備にかかりまして、月曜日、火曜日と正直なところを申し上げますとその間に本当にいろいろなことをさせていただきました。岡崎の病院は4月開院を目指して準備をしてきておりましたので、いわゆるハード的なものに関してはとりあえず病院の中に大部分のものが収容されている状態ではあったんですが、まだ検査機器などはぜんぜん整備がされておられませんし、ベッド、

それからベットのマットレスそういったところがやっとな病院の中に入ったところでシーツもカーテンもなく、まだ生活ができないのではないかという状態で、そこから緊急にいろんなところに声をかけていわゆるリネンというシーツ、マット、まくら、カーテンなどを揃えて人が生活できる環境を整えさせていただいて、それから一番大事なのは当たり前ですが食事がないと暮らしていけませんので、なんとか食事のデリバリーを頼めるかいろんな業者さんに問い合わせをしまして緊急に配置をさせていただいて、火曜日になんとか受入れ態勢を整えさせていただいたという経過でございます。

その中で、準備はもちろんそうなのですが、我々としては一番厚生労働省、国のほうから依頼されましたとおりとにかく我々の使命としては、「感染を外に出さない、日本の中で拡げない。」が我々の一番の大事な使命であると認識していましたので、そのための準備を進めさせていただきました。いろんな検討をさせていただきました今現在、現状でそういうことをやっているわけですけれども、病院の4階より上に、これは一般病棟階として一般の方が入院されることを想定して作られたんですけれども、その部分を完全に閉鎖した形で運用させていただくこととしました。これから話があると思いますけれども、感染症科の土井教授も含め、専門家医と外部のいろんな専門家にも問い合わせをして閉鎖の設定をさせていただきました。簡単に申し上げますと、感染者の方を岡崎医療センターになる予定の建物に入居していただくわけですけれども、入居した方が外に出してしまうとその時点でいろんな接触が起こって感染が広がる可能性が出てきますので、その方々に完全に区画された環境の中で、本当にこれは申し訳ないのですが、入居された方には封鎖された空間で生活をしていただく。それによって感染を拡げない万全の準備を進めることを第一に考えて、もともと入院する場所ですのでいろんな空調その他の設備は整っておりますので、それらを使いながらそういう形を取らせていただいています。

まず入居者の方が入ってこられるにあたって当然その棟へ入ってこられる過程でいろんな接触が起こる可能性があります。これに関してはまず入居の時間をできるだけ遅い時間にさせていただいて、棟に入る時点で小学校の児童の皆さんとの接触が起こらないということを前提に夜の遅い時間に入らせていただく。入らせていただくルートも限定して、1階から3階を通過して4階に行くエレベーターも完全に限定してこの通路、このエレベーターは変な言い方ですけれども清潔ではないというエリアという設定をします。そしてそこだけを使っていく。で、そのエリアには他の者が交錯せず進みましてまず入らせていただきます。そのうえですべての方が4階から6階ですべての生活をしていただくという設定を組ませていただいています。ただ、結局その方たちのたとえば食事を届けたりお手伝いをしたりすることは絶対に発生しますので、そこでは職員の行き来が発生します。1階から3階に主に職員がいるわけですが、まず職員をできるだけ少なくしました。その病院を運営するには比べると10分の1以下の数で運営しています。その中で大部分の職員は1階から3階までのいわゆる言い方を変えると清潔なエリア、ここの中でしかいろいろなこ

とをしない。で本当に一握りの職員だけが4階から6階までのエリアを行き来しまして、その職員に例えば食事のことであったり、入居された方の手伝いや手配などを限定して行う。そしてそこにアクセスする職員を限定して、その職員に対しては後で出てきますけれども感染防御策という言い方をするんですけれども、例えばマスクをしたり、ゴーグルをしたり、手袋をしっかりとしたり、そういうことを徹底して教育も再教育を、皆医療関係者ですから当然知っていることですけれども、もう1回教育をさせていただいて、これも急遽もう1回やらせていただいてそれを徹底したうえでその限定した職員だけが行ったり来たりする。それで、必ず所定の場所で、清潔な場所を汚染しないという条件のもとで所定の場所で着替えをして出入りするということを、計画を徹底させまして、それを監視させたうえで夜中に入居者の方ダイヤモンド・プリンセス号の乗船者の方々のうち、PCRというウイルス反応が陽性と出て、ただ症状がまったく出ていないという方に限定して受入れをさせていただきました。ただ、受入れるにあたってかなり厳しく制限する必要があるということで、我々もまずはバスに乗って入居者の方が大勢いらっしゃった方を1階の限定したエリアにまず留めてそこでいろんなチェックをさせていただきました。例えば酸素飽和度という血液中の酸素濃度が十分あるか、熱が高くないか、咳やほかの呼吸器症状はないか、いわゆる肺炎のような症状がないかということをや厳しくチェックしまして、少しでも症状がある方は、ここには申し訳ないけれども入っていただかない。ですから治療が受けられる病院に行ってくださいということとしました。岡崎医療センターは4月開院を目指しておりますので、4月を過ぎるといろんな診断機器や治療機器が使えるようになって当然診療をしていくわけですけれども、現時点では先ほども話しましたとおりそういう設備自体も整っておりません。ですから、病院として機能しない状態なのでそういう方を観察して差し上げる施設として位置づけてまず入口のところでいわゆる病状のような兆候がある方はそこで周囲の搬送させていただきました。

横浜からバスに乗られる時点で健康な方と限定して送っていただいたのですが、やはり、高齢の方などがバスに長時間乗っておられるなかでいろいろな症状が出て調子が悪くなる方が出てしまったと。で、そういう方は本当に申し訳ないんですけれども入居をお断りして病院に搬送するという形をとって健康な方に限定して入っていただきました。

ただ、それでもウイルス反応が陽性という方なので入居している間に少し呼吸器症が出て熱が上がってくるという方が発生しますので、そういう方を1日に何回かチェックをしながら「これは異常がある」と判断したら病院へ搬送していきます。こういう体制をとってまず入居していただく方たちがウイルス反応が出ているが健康で問題のない方が4階から6階の区画されたエリアだけで行動していただく。ですから、そこからウイルスが外に出る可能性はほぼゼロになるという状況を作りまして、あともうひとつの危険は先ほどお話ししましたようにそこに行き来しなければならぬ職員が危険になる因子がありましたので、そこでまず職員を極力少ない人

数で見てさしあげる。そういう体制をとって、そういう方をなぜ見てさしあげるのかというと、ひとつは周りの方に感染を及ぼさないこと、そういう方はどこかのポイントで、いわゆる肺炎を発症されたり、呼吸器症を発症される危険性が一定程度あり、発見が遅れてしまうと本当に重篤な状態になりますので、できるだけ早いタイミングでそれを発見して、しかるべき病院に送って差し上げるということを目指して設定をしっかりと組ませていただいています。

そういうなかで今現在 83 名の方が病院になる予定の岡崎医療センターの 4 階から 6 階に生活をしていらっしゃいます。その中で一部の方は病院に送られたりこの中に少しずつ入ってこられたりして。今現状はそういう形でやらせていただいています。

今、病院になる建物の中にいらっしゃる方はほぼ全員健康状態が保たれておられます。ですから、これからその方々のウィルスチェックをまたして、ウィルスが陰性になった時点でできるだけ早くお家に帰れる手配をするため観察をする予定をしています。

前回の説明会の時にも質問として出たと思いますが、どのくらいの期間続くかという質問が出ましたが、今回のコロナウィルスのデータが少ないので正確には言えない点もありますが、だいたい一般的には 2 週間位が大事な時期だと考えられております。その間に何も起こさずにご本人が発症することなく過ごしていただきお家にお帰りいただけるように万全の準備をして今管理をさせていただいています。

前回の説明会の時も職員のことを大変皆さん心配されておられました。そのとおりでと思いますが先ほどお話ししたように障壁を作っておりますので、入居者から直接外にウィルスが拡がるという確率はものすごく低いと思っております。ただ、その中で職員がどうしても行ったり来たりしなければならないので、先ほども言いましたとおりに職員をできる限り限定して発症後のいろんな備えを徹底させ、それから物品はできるかぎり医療廃棄物の形で廃棄することでウィルス感染を拡げない万全の私共のできる限りの全力を尽くした備えをして準備をしてやらせていただいている状態です。現状としては、我々が計画したようにコントロールができています。

細かいいろいろな医学的な点については、また土井教授のほうから詳しい説明がありますけれども、我々としては、そういう形で今回の目標に沿って進んでいると考えております。

今回は、本当に皆様に御報告が遅れましたことは重ねてお詫び申し上げます。そういう中で準備をさせていただいて、御報告が遅れたことにつきましては心からお詫び申し上げますが、我々としては本当に全力で何とか準備をして、何と言いますか期待されているタスクをしっかりと 100 パーセントできるように準備して今もやらせていただいているつもりでございます。ぜひ、御理解いただければと思います。よろしく、お願いいたします。

(司会)

続きまして、感染防止策につきまして藤田医科大学医学部感染症科土井教授、よろしくお願ひいたします。

(藤田医科大学医学部感染症科：土井教授)

藤田医科大学の土井と申します。私は普段は藤田医科大学の方で感染症の患者の診察をしたり治療を行う仕事をチームで行っております。

今回はこのようなことになったので、こちらに交代で詰めながら感染の予防をすることに専念しております。こちらに滞在者がおられる間は感染症の専門のものが常に詰めていて、きちんと干渉しているという状態を維持していきます。

いくつかに分けてお話ししたいと思います。

最初にウイルスの話です。次に具体的にどのように感染防止対策をしているか、最後にそれが周りにどう影響するのか、うつったりするのか、心配されるころだと思ひますので、この3つに分けてお話をしたいと思います。

まず最初に、池田様から、これは飛沫、接触です、というお話がありました。報道等でもこの言葉は出ていますので、皆様お聞きになったことがあるかと思ひます。まず飛沫ということからです。飛沫というのは、イメージとしては咳をするという感じですね。ウイルスとか菌というのは見えないというのが分からないし心配だと思ひます。頭の中でこういうものだとイメージすると分かり易くなるかと思ひます。例えば私が咳をしたとすると、飛沫というのは普通は飛んで2メートルと言われていています。運が悪くとも3メートルぐらいと言われていています。そして重力で床に落ちる。ウイルスとは生き物ではないので、そこで分解して死んでしまうということになります。例えば私が今ここで咳をしたとすると、1列目のご父兄の所へ届くかどうか、という感じですね。2列目3列目だともう届かないと思ひます。そういう意味で、近づくとところに一番感染のリスクがある、風邪やインフルエンザでもそうですけれども、いままでの感染事例でも、関係のないところからうつったということは決してなくて、人が集まったところ、船といった不運なこともありましたが、そういう人と人が至近距離で接触するというところでうつるということですね。これが飛沫感染となります。

もう一つの接触という事ですが、これは飛沫とセットとなっている話ではありませんが、触ってうつるという事ですね。直接に触ってうつるという事よりは、私が陽性だとしてくしゃみをした時に口を手で覆って、そのまま隣の部屋に行ったとします。その後別の方がたまたまそのドアのノブを触った、というような時にその方は気が付かないので、その手で口を触って感染してしまう、というのが接触感染と言われているものになります。

ひとつははっきりさせておきたいのが、このようなドアノブといった人が良く触る場所、そこでもウイルスは最終的には死んでしまいます。これははっきり数字で言うのは難しいですが、色々な研究があつて、だいたい数時間からそんなに長くても数

日では死滅してしまうという事が分かっています。ただ人が良く触るところは、その前に触ってしまうと、そこを通して息の中に入って感染することがあります。

この二つが感染のルートとなります。

ただし、結核とかはしかといった空気の中に漂っていてうつるという空気感染するものではない、これもはっきりと分かっています。あくまでも飛沫、接触の二つであるということが分かっていますので、私たちの対策もそこに集中しているということになります。

次に私たちが何をしているかということをお話させていただきます。

ここの病院はひとつの建物に見えるかもしれませんが、2つの建物になっているとお考え下さい。3階から下の建物、その上に4階から7階までの建物がのっているというイメージで、その間を通るのは決まったエレベーターのみで、患者様が通るものとスタッフが通るものだけでつながっています。ほとんど別の建物が一緒になっているとお考えいただくとイメージが湧くと思います。

上の滞在者がいるところがどのようになっているのかというのは、皆さんが気になる場所だと思うのでお話ししますと、非常に健康な方々が入っているということです。咳をしている方もおられません。なぜならそういう症状が出た時点で病院に行っていたことになっています。ここは病院ではなくて、あくまでも滞在していただいているということです。具体的には私たちが3回の食事、あと果物やお菓子といった差し入れを上に乗って召し上がっていただく、テレビを見たりインターネットを使っていただいで過ごしていただいでおり、非常に静かな状態です。病院内で看護師さんが走っていてといったものとは全く違う、住んでいるという捉え方をいただければ良いと思います。皆さん船から来られたので、とても落ち着くし安心して過ごすことができるという声をいただいています。

どうしても人が通らないといけない所で何が起きているか、という事です。多くの職員が出入りしているように見えますが、恐らく滞在者の方へ行っている職員というのは、ザックリとそのうちの1/5程度だと思いますが、ごく一握りの人だけが上に行くという事にしています。食事を運んだり、体温を測定したりしています。そこに入って行く時は飛沫感染と接触感染への対策をしています。これは世界のどこへ行ってもやることは決まっています。マスクをしてガウンをして手袋をする。マスクは鼻や目などの粘膜から飛び散ったりすることのないようにする、滞在者の近くに行く時はそれに加えてN95マスクという、本当は必要が無いと言えれば必要が無いものですが、万全を期するという意味でこの空気感染を防ぐためのマスクを2重にしています。そこで勤務している間は、この状態で職員は過ごしています。勤務時間が終わって、上の建物から下の建物へ降りてくる場合は、外に着ているもの、手袋といったものは全部捨てます。外す時に違うところに触ったりして、せっかく防御していたところから中に入ってしまおうということに一番気を付けなければいけない、リスクがあることになります。例えば手袋を内側から外側へ脱がないといけない、といった手順があります。ただ脱ぐという事ではなくて、ひとつひとつ



の手順が決められています。私たちは、職員が確実に毎回実行できている、という事を確認する仕事をしています。

上の勤務が終わって降りてきた方は、もちろん手も洗うのですが、清潔な状態で3階より下のエリアに戻ってきています。この時点で、上の階で作業して感染したという可能性は無くなります。上の階での勤務が終わった職員は、直ぐに車にのってどこにも寄らずに自宅に帰るように指導しています。

最後に、建物の横にある小学校は大丈夫なのかというご質問を何度かいただいていますので、その点についてお話をします。

結果から申しますと、全く心配していただく必要はありません。

病院の4階より上に滞在者が居ることが、小学校で勉強していたり、外で遊んでいる子ども達に何かあるというのは、起こり得ないとしか申しようがない。

飛沫は届きませんし、接触は起こらない、職員は清潔な状態で帰宅しますので、完全に分離しているとお考え下さい。

全く普段通りに生活していただきたい、学校生活も普通に送っていただきたい。病院とつながっていると心配していただく必要はございません。

ただ、ここまでは全く別に、ニュースに出ていますように、コロナウイルスが北海道であったり和歌山で出たとか、色々な場所でぽつぽつと報告があります。私も含めて皆さんも、もの凄く少ないですが、全く知らないところから感染してしまうというリスクはあります。

これを防ぐという事で、厚生労働省も言われていますが、うっかり手で咳を受けてしまった時は必ず手を洗いましょう、といった最も基本的な事は守るようにしましょう、という事です。

もう一つだけお話させていただくと、今回起こっていることは、普段の冬はインフルエンザがもの凄く多く、学級閉鎖になっていたりするかと思うのですが、今年は12月まではインフルエンザが多かったですけれども、1月からはほとんどない。これは恐らくコロナウイルスの事があって、手を洗いましょう、マスクをしましょうといった事が非常に行われるようになったことで、インフルエンザが非常に少なくなったという事があります。

明らかに手洗いや咳エチケットといった事は、大きな効果を出していると思います。これを更に徹底して行って、街の中に入ってきてしまったウイルスを防いで行って、そして、そこまでお話しする立場でもないですが、国としても収束をもって行きましょう、という方向に行くでしょうし、もって行かせなければいけないと思っています。

長くなりましたが、私からはこれで終わらせていただきます。また後でご質問があればお受けしたいと思います。ありがとうございました。

(司会)

次第にはございませんが、愛知県の体制についてもお話を伺いたいと思います。

愛知県保健医療局健康医務部医療計画課の鶴飼課長、お願い致します。

(愛知県保健医療局健康医務部医療計画課：鶴飼課長)

愛知県保健医療局健康医務部医療計画課長の鶴飼でございます。

まず、岡崎市で藤田学園さんが新型コロナの陽性患者さんを受入れることになったことに対して説明が遅くなったこととお詫び申し上げます。

愛知県に厚生労働省から話が来たのが、日曜日の夜でした。厚生労働省から藤田学園さんに受入れていただけないかと話をされた後に、愛知県にも話があったのですが、知事も申し上げていましたが、日本全体の危機であるということで、藤田学園さん決断したことは藤田学園さんの英断であると思っています。愛知県としてもオール愛知で体制を整え受入れて、最終的には受入れた方全員が重症にならずに元気に家に帰っていただくまでが、我々に課されたミッションだと考えて一緒になって頑張っていこうと、県としても日曜日に決断させていただいた。

今センター内の状況については詳しく説明させていただいたところですが、報道等であったように患者さんたちは県内に散らばって入院されるような状況です。感染症の指定医療機関は県内に 72 床のベットがございます。この 72 床の中で各機関にご協力いただきながら治療を行わせていただいている。この 72 床だけでなく、入院可能医療機関という形で、この現在こうしている間も県の職員が確保するために走っている状態です。岡崎市だけでなく県内で患者さんが出た場合でも、万全の医療体制が取れるように一生懸命頑張っていますので、なかなかご安心をとというのは難しいかもしれませんが、ご理解をいただきたいと思います。

県民の方への一般的な相談窓口というのも、1月27日から岡崎市内だと保健所に開設をさせていただいていますし、それ以外でも愛知県内の保健所、県庁でも受け付けておりますので、遠慮なくお電話いただきたいと思いますし、症状に不安があった場合でも、保健所では24時間「帰国者、接触者相談センター」で電話を受け付けております。

いろんな情報がマスコミ等から発表されているかと思いますが、正しく情報を正しく県民の皆様にお伝えするというのが風評被害の防止につながる事かと思っていますので、県としても情報提供をしっかりとやっていきたいと思っています。

どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

(司会)

次に、岡崎市の体制につきまして岡崎市保健所の池野保健部長、お願い致します。

(岡崎市保健所：池野保健部長)

岡崎市の体制について説明申し上げます。

昨年、12月に中国武漢で初めて発症した「新型コロナウイルス」感染症への対応につきまして、1月30日に国に「政府対策本部」が設置されるなどの動きを受け、岡崎市

でも2月1日に「岡崎市新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、全部局を挙げて感染拡大防止に向けた情報の共有と対策を進めているところでございます。

今回の藤田医科大学のクルーズ船からの乗客受入れに関しましては、「市民の皆さまの生命と健康を最優先に藤田医科大学の完全なコントロールの下で万全な感染予防対策を取っていただく」よう市長より申し入れをしております。今後は、厚生労働省、愛知県、藤田医科大学と緊密に連携をしながら、先ほども申し上げましたが、全市を挙げて感染拡大防止に向けて情報発信等対応に努めてまいります。市民の皆さまには、正しい情報に基づきまして、安心して日常生活を送っていただきたいと思っております。

(岡崎市保健所：服部所長)

岡崎市保健所長の服部でございます。

まず、日曜日からいろいろなことが起こり、準備期間が短く皆様に情報をお知らせする期間も短くなってしまい、大変不安を抱かせてしまったこととお詫び申し上げます。電話相談の窓口について説明します。お手元の資料、厚生労働省の資料があります。先ほど藤田医科大学の先生の説明された主なエッセンスも載っています。ご覧いただきたいと思っております。また厚生労働省の相談窓口のフリーダイヤルも載っています。岡崎市の場合は、次第の下の方に記載してあります。新型コロナウイルスの相談窓口です。平日の受付時間は午前9時から午後5時までです。いろいろ質問をお寄せいただければと思います。また実際に37.5℃以上の発熱が4日以上続く場合、強いだるさ、呼吸困難がある方、また高齢者の場合、この状態が2日間続く場合は、帰国者・接触者相談センターに連絡していただきたい。こういった方は、早めに検査して医療に結び付けていきたい。そして帰国者・接触者の相談外来を紹介させていただいて、そこで検査を受けていただき必要があれば医療に回っていただく体制を整えています。また緊急の場合の電話番号も用意しています。こういった体制をとっていますので、必要な時は活用していただきたい。そして市民の安全安心につなげていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(司会)

続きまして安藤教育長、お願い致します。

(岡崎市：安藤教育長)

本日は、お忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。

連日のように、新型コロナウイルスのことがテレビ、新聞で報道されています。

藤田医科大岡崎医療センターにも、現在83名を超える入所者がおり、8人が肺炎の疑いで他の医療機関に搬送されましたが、最終的には最大170人の受入れがあると聞いております。不安に感じるのは当然なことであり、ましてや隣接する小学校の児童、及び保護者の方々の不安、心配は大きいものと心中を察しております。

今から、教育委員会の対応をお伝えします。是非、お聞きいただき、保護者の皆さまや子どもたちの不安、心配が少しでも解消できればと思っております。

藤田医科大学岡崎医療センターの先ほど説明では、使用区域の限定、外出の禁止、医療環境管理士の常駐など、医療現場で必要な感染予防をしっかりと行っております。こうした対応を受け、教育委員会は、保護者が安心して子どもを学校に送り出し、児童生徒が安全に楽しく学校生活を送ることがより確実にできるように、学校及び市関係部局を通して関係する諸機関に対しまして次のことを依頼しました。

1 厚生労働省及び藤田医科大学に対して（岡崎市保健部を通して）

- ①入所者の方に対する、センター内での管理および外出の制限を確実にすること。
- ②医療従事者に対する、センター内および通勤時における感染予防対策を徹底すること。
- ③入所者の方の観察期間が終了し帰宅させる際には、近隣学校へ配慮した方法をとること。

2 愛知県教育委員会に対して（西三河教育事務所を通して）

- ①スクールカウンセラーの緊急派遣を行うこと。
- ②県教育委員会との連携体制の充実。

3 各学校に対して（直接）

- ①各校に通知した感染対策を徹底し、感染の予防に努めること。
- ②岡崎医療センター周辺校の児童生徒への偏見や不適切な言動がないよう指導すること。
- ③関係者への人権侵害や風評被害が発生しないよう指導すること。

4 報道関係者に対して（市総合政策部を通して）

- ①子どもへの取材等は控えること。

この後、教育監より、具体的なことについてお伝えします。

今後も、岡崎市教育委員会としましては、厚生労働省、藤田医科大学岡崎医療センター、愛知県、市関係部局、学校と緊密に連携し、子どもたちが安心して学校に通うことができるよう全力を尽くしてまいります。

保護者の皆さまにおかれましても、是非、お子様に分かるようにお話いただき、子どもたちが事実を知ること、不安を少しでも減らしていただければと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

（司会）

続きまして加藤教育監、お願い致します。

(岡崎市：加藤教育監)

岡崎市教育委員会の加藤でございます。

私の方からは、教育委員会の対応を中心に経過等を説明させていただきます。

まず、基本的な心構えとしまして、

- ① 正確な情報収集に努める
- ② 国や藤田医科大学、県、保健所など関係機関・部局に、必要な要請や依頼をしていく。
- ③ こうしたことによって、岡崎小学校の子どもたちと教職員への支援を適切に行う。

ということを大切にしていまいりました。

それでは、まず、「藤田医科大学が受入れを決定した」との情報を得てから今日までの経過、対応等についてお伝えします。

2月17日(月)午後 インターネットのニュースで「岡崎医療センターでの受入れがされる」との情報を知り、情報収集を始めました。

同日の夕刻、市保健所から「藤田医科大学が国からの要請に応える形で、岡崎医療センターで受入れを行う」との連絡を受けましたので、その内容を、岡崎小の校長先生にも電話で伝え、火曜日以降のことについて、連携を密にして進めていくことを確認しました。

2月18日(火)今後の対応や支援の参考とするため、千葉県勝浦市教育委員会に連絡を取り、「ホテル三日月」において中国から帰国された方を勝浦市で受入れた際の、教育委員会や学校の対応などについて、実際の様子や状況などについて聞きました。

受入れが始まる、2月18日(火)、19日(水)に指導主事を岡崎小学校に派遣し、状況把握と支援をはじめました。

2月19日(水)校長会議において、新型コロナウイルス感染症対応に関して、予防、児童生徒等への対応、岡崎医療センターでの受入れについて、全67校小中学校校長と状況を確認し認識を共有しました。

同じく水曜日、岡崎市教育委員会から愛知県教育委員会に「感染患者受入れに係る支援について」文書で依頼しました。また、「感染者受入れに関わる近隣学校への配慮について」、厚生労働省、藤田医科大学、愛知県に働きかけるよう、関係部署に文書で依頼しました。内容は、先ほど教育長が説明させていただいた通りです。

同じく水曜日、岡崎市教育委員会に「子どもが習い事の際、他校の子から心無い言葉を言われた」との御心配の御連絡をいただきました。そこで、教育委員会から市内全小中学校の校長に、同日付で文書を発出し、「岡崎医療センター周辺校の児童生徒への偏見や不適切な言動がないよう、また、関係者への人権侵害や風評被害が発生しないよう」指導することを改めて依頼しました。また、来週初めには、「児童生徒のみなさんへ」ということで、岡崎市教育委員会から市内全小中学生にメッセ

ージを配布する予定です。この他にも、愛知県教育委員会、関係機関・関係部署、及び学校と様々な連絡とり、対応を進めてまいりました。

そうした中、具体的に次のような支援物品を岡崎小学校に届けたり、支援人員を派遣したりすることができることに、現在なっております。

- ① 岡崎市より、殺菌・消毒剤、マスク
- ④ 岡崎市教委より、子ども用マスク
- ⑤ 藤田医科大学より、大人用マスク
- ⑥ 愛知県教委より、臨床心理士の派遣
- ⑦ 文部科学省より、教科調査官の派遣

今回、藤田医科大学の受入れについて、事前連絡なく知ることとなり、情報収集をしながら対応をしてまいりましたが、概要は以上のとおりです。

引き続き学校や国、藤田医科大学、関係機関・部署と緊密に連携し、子どもたちが安全、且つ安心して、楽しく学校生活を送ることができる環境づくりに努めてまいります。そして、子どもたちが学校で落ち着いて、穏やかに学習できるよう努めてまいります。なお、学校生活のことで、御心配がある場合は、岡崎市教育委員会に御連絡をいただければ、直接お話を伺わせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。